

広報 けせんぬま・もとよし広域

2023.6.1

No. 78

- ②……………常設展って何？
- ③……………リア美の常設展
- ④……………常設展＊方舟日記展
- ⑤……………常設展＊美術作品展
- ⑥⑦……………常設展＊震災資料展
- ⑧……………ご利用案内／お問合せ先

発行／気仙沼・本吉地域広域行政事務組合
(気仙沼市赤岩五駄鱈 43-2 / TEL:0226-22-9111)

まるごと
“リア美”

常設展って何？

特集号 Vol.3

リアス・アーク
美術行食官

常設展って何？

本号は、前特集号(2022年6月1日号)に続く、「リアス・アーク美術館特集号」の第3弾となります。第1号では当館の施設概要やご利用方法のほか、見どころや事業内容などを、第2号では当館の「教育普及事業」の活動内容を中心としてご紹介しました。

今回は、当館の事業の中でも核をなす常設展について改めて詳しくご紹介します。前号と併せて保存版としてご利用ください。

前号の表紙

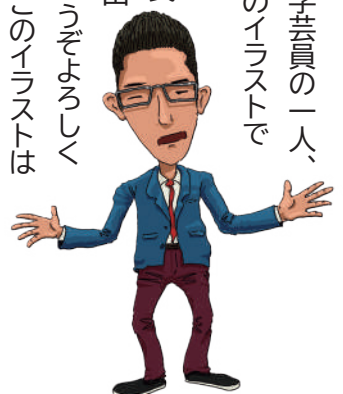


QRコードから、リアス・アーク美術館ホームページへご案内いたします。



本号では当館学芸員の一人、
菅岡主任学芸員のイラストで
ご案内します。

担当は歴史・民俗分野。福井県出身の33歳です。どうぞよろしく
お願いします。このイラストは
常設展の展示解説でもイラストを担当
している当館の山内館長が描いています！



どこの美術館や博物館にも、たいてい「常設展」があります。「常設展」というのは、『常』に『設』けられている『展』示のこと。その館の活動方針に沿って調査・研究・収集された資料や所蔵品を常時公開している展示のことです。

限定的な会期が設定されていない※ので、開館中ならいつでも観覧することができます。多くの博物館・美術館等ではこの常設展を主軸として、年に数本の企画展(多くの場合は会期限定)を開催するなどの活動を行っています。

※定期的に展示替え等を行う施設もあります。

常設展を観れば、その施設の基本方針や地域の歴史や文化が分かるため、各地を訪れた際には、特別企画展だけでなく「常設展」を鑑賞することをお勧めします！

その土地の歴史や文化などを
知ることが出来るよ。
地元作家の作品などを紹介
していることが多いので、
チェックしてみよう！



「モンホール」3階から望む常設展示室「アークギャラリー」



リア美の常設展

あひためて！

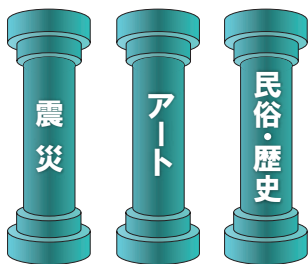
リア美
常設展
の由来

リアス・アーク美術館は主に現代美術を紹介しつつ、地域の生活文化を普及するための歴史民俗系常設展示を持つ総合博物館的な美術館です。

基本方針は、東北・北海道の美術を中心に調査研究、展覧会を催し、同時に東北・北海道をエリアとする地域文化、特に漁村文化と食文化を中心に歴史、民俗などを研究、蓄積、展示します。

圏域に内在する文化資源を発掘し「食」を軸として紹介する「方舟日記」。当館ゆかりの作家を中心に紹介する「収蔵美術作品展」。東日本大震災の記録資料等を常設展示する「東日本大震災の記録と津波の災害史」。現在、この【民俗・歴史】・【アート】・【震災】の3本柱が当館の常設展の基軸となっています。

リア美常設展



開館前、当圏域の構成市町である気仙沼市、唐

桑町、本吉町、歌津町、志津川町、津山町（現：登米地区）の一市五町の文化資源を発掘すべく、「宝探し委員会」が設置され、多くの品々を調査しました。そして「地域文化の宝」として生活道具や漁具、信仰に関する品々が収集されました。

開館当初は、それらを常設展の基本資料とし、「リアスの美と造形」と題して当地域の「日常」と「ハレの日」に見る『かたち』と『文化』を紹介しました。一方、美術収蔵品を有していない当時は美術作品の展示はありませんでした。

2001（平成13）年には、『方舟日記～海と山を生きるリアスな暮らし～』をリニューアルオープン。この地域を昔から現在まで支え続けてきた「食」を軸に、薄れゆく地域の民俗、習俗、歴史、生活文化を総合的に紹介し、次世代へと伝えていくと同時に、芸術文化理解の一助とする展示としました。

その後、寄託や寄贈などによって収蔵された美術作品の展示スペースを新設し、収蔵美術作品展も常設化しました。当館ゆかりの作家の絵画や彫刻、工芸など多様な作品を公開しています。

民俗・歴史展示「方舟日記～海と山を生きるリアスな暮らし～」展示の一部（民具や漁具の他、囲炉裏の再現展示などがある）

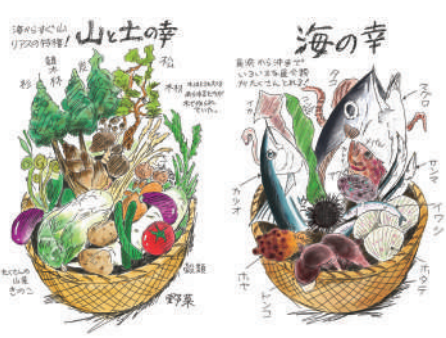
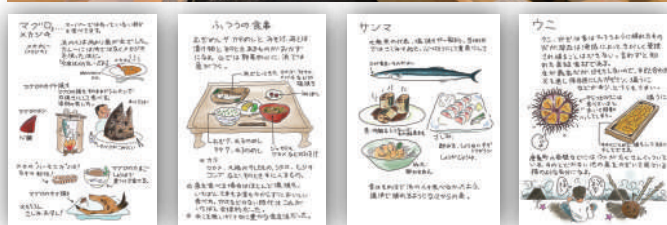


はこがねにっき 方舟日記

海と山を生きるリアスなくらし

三陸沿岸部、リアスの暮らしは、黒潮と親潮が出会う豊かな海と、それに接する豊かな山並みに支えられています。当地域は、同時に穏やかな内湾を有し、地形や気候風土の恩恵を受け、古くから漁業が栄えてきました。

本展では様々な道具や資料を基に地域の歴史や生活文化を「食」をキーワードに紐解き、手描きイラストや写真を添えて紹介しています。



《豊かな食環境は生活の基礎》

広域圏に存在する多くの貝塚から判断できるように、当地域は縄文の時代から変わることなく《食料の宝庫》と呼べるほど《食》に恵まれています。ヒトが生活していくためには食料が不可欠です。食料入手が継続的に保証されて初めて、ヒトはその土地に定住することができます。

この広域圏に現在の文化が築かれた最大の理由、それは「そこに豊かな食環境があったから」に他なりません。それゆえに、この広域圏一帯の民俗、習俗、歴史、生活文化を知るためには《食文化》を見つめる必要があると考えています。

《展示解説について》

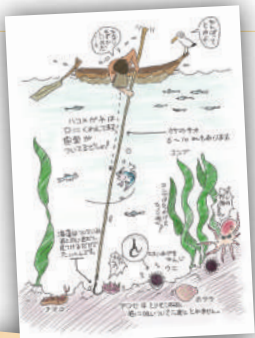
本展示では、展示資料が実際に使用されている様子などを描いたイラスト・パネルによる展示解説を行っています。当館学芸員の手によるそれら解説は、文字や写真ではイメージしにくい内容を補足するための補助資料となっています。

現代の身近な文化を考える「方舟漂流記」もあります。



《昔の道具》

本展示では、生活道具や農具、漁具、木造船など、昭和30年代の資料を中心に展示しています。一角には囲炉裏の再現展示などもあり、イラスト・写真も豊富なので幅広い世代で楽しめます。



学校の先生へ「昔の道具」がいろいろありますので、ぜひ校外学習や遠足などでご利用ください！



収蔵美術作品展

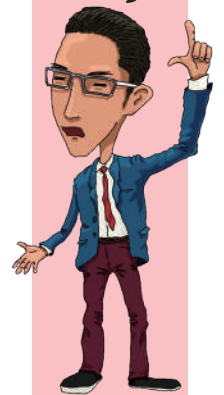
1994年の開館以来、リアス・アーク美術館では東北、北海道在住、あるいは所縁の作家を中心としつつ、より多様な芸術表現に触れる機会を地域住民に提供できるよう、様々な企画事業を行ってきました。これまでの展覧会の内容を見てみると、油彩画、水彩画、版画、写真、彫刻、工芸、インスタレーションなど、その表現様式は多岐にわたっています。



この収蔵美術作品常設展示は、企画展等として当館が過去に紹介した作家より寄託、寄贈いただいた作品を中心に構成されています。よって展示作品の大半は東北、北海道在住、あるいはゆかりの作家による作品です。

作品鑑賞の際の参考として、作品の傍らに作家と作品の解説パネルを設置していますので、初見でも安心してご覧いただけます。

心を動かす
作品がたくさんあるよ。



浅井元義【気仙沼・南三陸のスケッチシリーズ】
2003～2006年／紙・オイルパステル



鎌田紀子【のだばる】
2008年
ミクストメディア(布ほか)

荒井俊也
【歩くサッポロ一番 2002】
2002年
ブロンズ
(部分)

当館に足を運んだ作家とのつながりは、地域の大切な文化的財産となります。過去の地域文化保存はもちろん、今現在、さらにこれからの未来が育む新しい関係性や価値観、文化も同乗できる《方舟》であり続けることは当館の重要な使命です。本展は今後も進化を続けていきます。



常設展

東日本大震災の記録と津波の災害史

リアス・アーク美術館では、東日本大震災発生直後から、学芸係が中心となって、気仙沼市と南三陸町沿岸部における被害記録活動を行いました。その後、3月23日付で気仙沼・本吉地域広域行政事務組合教育委員会より「気仙沼市、南三陸町の震災被害記録調査担当」という特命を公式に受け、2012年12月31日までその任に当たりました。



現場での活動の様子(被災物の収集)

記録調査活動の目的は単に震災被害を記録することではなく、これまで築き上げられてきた地域の最後の姿を記録することでした。津波は文化

まで奪い去るわけではありません。ただ、再生するための手掛かりを残さなければ、地域住民はそれを思い出すことができなくなります。私たちは地域再生の為に、文字通り命がけで震災を記録しました。活動に際して向き合った命題は次の3つです。

- 東日本大震災及び大津波によってもたらされた、気仙沼市、南三陸町への災害被害の実態を記録、調査し、それらを復旧、復興活動において有効に活用できるように取りまとめること。

- 今後も想定される地震、津波災害に向けて、防災教育や減災教育のための資料として活用可能なように震災被害の実態を取りまとめること。

- 東日本大震災被災という重大な出来事を、地域の重要な歴史、文化的記憶として後世に伝えるとともに、日本国内、あるいは世界で行われている災害対策事業等への具体的な資料提供を行うこと。



次の津波に備えないといけないよね。

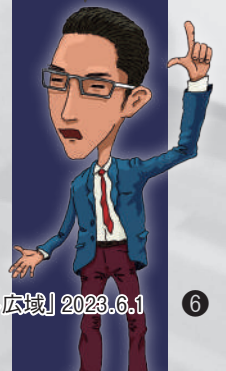
室内の壁には主に写真パネル、床には破裂したプロパンガスボンベをはじめ、膨張したドラム缶、ひしゃげた鉄骨、大破した漁船などの被災物がむき出しで並ぶ。



約2年間の活動を通し、私たちは同市町内の津波被災現場をくまなく歩き、現場写真約3万点、被災物約250点、さらに調査記録書等の膨大な資料を得ました。そして平成25(2013)年4月3日には、それらから厳選した約500点の資料を新常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」に凝縮し、展示公開するに至りました。

本展は、「東日本大震災をいかに表現するか、地域の未来の為にどう活かしていくか」というテーマで編集されています。

気仙沼市・南三陸町の小・中学生、高校生は観覧無料です！
*フリーパスポートをその場で作れるよ！





2011年3月29日、気仙沼市浜町(鹿折地区)の状況。津波被災現場を歩くと、目にする光景の非現実性、あまりの異常さに思考が停止してしまう。常識に裏付けられた論理的な解釈ができず、一瞬、妙に幼稚な思考が顔をのぞかせる。「巨人のいたずら…」、などと感じたりするのだ。実際、そんな程度の発想しかできないほどメチャクチャな光景が果てしなく続いていた。

写真に添えたコメント

陸に乗り上げ車路に鎮座した大型漁船群と柵に乗り上げた車

リアス・アーク美術館に与えられた役割は、単に記録資料を残すことではなく、それを正しく伝えていくことです。伝えるためには「伝える意志」と伝わる表現が必要となります。私たち学芸員は、これまで美術館として蓄積してきたノウハウを駆使し、多様な視点で東日本大震災を表現することに努めました。

展示資料は、当館学芸員が被災現場で撮影した写真203点、同様に収集した被災物155点、歴史資料等137点が収められています。

展示前半は【被災現場からのレポート】とし、直後からの被災現場の多種多様な状況をまとめています。後半は【被災者感情として】【失われたもの(こと)】【次への備えとして】【まちの歴史と被害の因果関係】の4テーマで構成されています。

すべての被災現場写真に、その写真を撮影した際に感じたことや考えたことなどをルポルタージュのように文章で添えています。



被災物「タイル片」
(気仙沼市・南三陸町各所
/2012.3.30~4.20)

津波つつうの、みな持ってっ
てしまうべえ、んだが何にも
残んねえのっさ…
基礎しかねえし、どごが誰の
家だが、さっぱり分かんねんだ
でば。 中でも、玄関だの、風呂
場だののタイルあるでしょ。
あいづで分かんたね。俺もさ
あ、そんで分かったのよ。手の
ひらくらいの欠片でも、家だ
がらねえ。
残ったのそれだけでば。

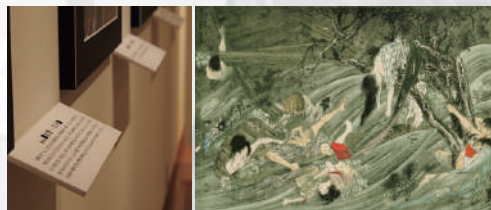
被災物に添えたテキスト

被災物は「電柱、鉄骨、家屋部材、車、漁船」などの【津波の破壊力、火災の激しさなど、物理的な破壊力等が一見してわかるもの】、また、「家電、時計、携帯電話、ランドセル、ぬいぐるみ、玩具」などの【災害によって奪われた日常を象徴する生活用品や、震災以前の日常の記憶を呼び起こすようなもの】という2種類に類別されます。

被災物には、様々な立場の被災者を想定した聞き書き風の口語短文を付しています。これは震災という出来事を自分の身に置き換えて感じ、考えてもらうために、具体例を示すことによって被災物の背景を共有してもらうための工夫です。

さらに、明治や昭和の三陸大津波、チリ地震津波の写真等資料を三陸沿岸の過去の津波被害記録として紹介しています。

加えて、震災発生からの2年間、被災地で生活する中で得られた様々な情報や、調査活動から見えてきた課題、違和感などを【東日本大震災を考えるためのキーワード】として108つの言葉を選定して文章化し、展示資料と並行する形で添えています。具体的なキーワードには、「被災者、記憶、表現、想定外、未曾有、ガレキ、自然観、復興」などがあります。



キーワードパネル 「風俗画報大海嘯被害録」の挿絵



震災の只中であつた当時、まとまりのある文脈で、起承転結を語れる時期ではないとの判断から、時系列ではなく内容重視の構成としました。膨大な文字量、煩雑な資料内容となつていますが、その混沌とした現実をあえてそのまま展示する方針を選択し、現在も原状を維持しています。

時間をかけ、震災についてじっくりと考えていただける機会となれば幸いです。

常設展見学モデル―遠足や校外学習にも

■ピンポイントコース(30分〜1時間)

お目当ての常設展の観覧(学芸員解説も可)

社会科 「昔の道具」・「地域の産業や歴史」など

美術科 「美術作品鑑賞」・「素材と表現」など

生活・総合 「震災から学ぶ」・「減災学習」など

■ゆったりコース(目安2〜3時間)

常設展と企画展を観覧▼レストランで昼食や喫茶▼建築の観賞▼ショップでお買い物

例 企画展鑑賞「○○展」▼美術・民俗常設展観覧

▼昼食(レストラン)▼震災常設展観覧

¥0で楽しむ美術館(入館のみなら無料)

館内と館周辺の散策・展望台での記念撮影・建築、屋外作品観賞・中庭でお弁当ランチなど。

出前授業のご案内―講師料は無料です

学校の先生!行事の幹事さん!当館学芸員を講師とする講座はいかがですか?ジャンルは美術・工作・地域文化・歴史・民俗・震災など幅広く、メニューもたくさんあります。講師料や交通費は無料。内容や時間などは応相談。ご希望などをお伺いします。

詳細はホームページの「美術館からのお知らせ」から「出前授業について」をご覧ください。

ご利用案内

開館時間	9:30~17:00(最終入館は~16:30)		
休館日	毎週月・火曜日/祝日の翌日(土、日・祝日を除く)・年末年始・メンテナンス休館(12月末~1月中旬頃)		
入館料	無料		
観覧料	■常設展 (団体は20名以上)		
	区分	個人	団体料金
	一般	700円	600円
	大学・短大 専門学生	600円	500円
高校生	500円	400円	
小・中学生	350円	250円	
	※フリーパスポートで圏域内小・中学生、高校生は無料		
	※常設展は3種ご覧になれます。		
	■企画展=展覧会ごとに設定		
	■共催展等=基本無料		

お問い合わせ先

リラス・アーク美術館

気仙沼市赤岩牧沢138-5

(気仙沼市総合体育館アー・ウエーブそば)

電話 02226-241611

Eメール riasark.m@nifty.com

ホームページはQRコードから



※療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその介護者1名は常設展無料、企画展半額。身体障害者手帳をお持ちの方、及び障害の程度が一級または二級の方の介護者1名は常設展無料、企画展半額。

アクセス

三陸自動車道(気仙沼中央IC)から約5km(仙台市から約115km/石巻市から約70km/陸前高田市から約25km)、東北自動車道「一関IC」から約50km ◆無料駐車場あり(普通37台・大型5台)



東北新幹線「一関」(大船渡線)「気仙沼」/東北新幹線(仙台)「気仙沼線」(気仙沼) ※気仙沼駅からタクシー(約15分)をご利用ください。 ※「タクシー割引券」と「常設展観覧券引換券」のセットクーポン券が気仙沼駅前観光案内所、気仙沼市観光協会(電話:0226-2214560)で販売中。 ※現在、気仙沼線「前谷地」気仙沼、大船渡線「盛」気仙沼間はBRT運行。 *仙台気仙沼、一関気仙沼間で高速バス運行中。

アクセスマップ

